



古代末期・東方キリスト教論集

戸田 聡 [著]

5月25日発売

キリスト教修道制の成立をめぐる諸研究、『エジプト人マカリオス伝』や最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサンに関する研究と原典翻訳、そのほか著者が企図するヴェーバー『宗教社会学論集』全訳をめぐる諸論考など、常に優れた成果を生み出してきた研究者の歩みを示す27編。「己れの研究の内容が、己れがキリスト者でありかつ日本人であるという事実にとりまかされど刺さっているか」——この研究者としての強い自省を含む長い「あとがき」を付す。

◆A5判・390頁・定価5775円

著者 戸田 聡 (とだ・さとし)

東京大学経済学部卒。金融機関勤務ののち一橋大学大学院、ルーヴァンカトリック大学、ライデン大学などで学ぶ。文学博士 (doctor litterarum)。専門は古代キリスト教史、東方キリスト教文学。現在、北海道大学文学研究院教員。著書：『キリスト教修道制の成立』、*Vie de S. Macaire l'Egyptien. Edition et traduction des textes copte et syriaque*、『古代キリスト教研究論集』他。訳書：フランク『修道院の歴史』、ファン・デル・フリート『解説 ユダの福音書』、ジョーンズ『ヨーロッパの改宗』、ブラウン『貧者を愛する者』、ベック『ビザンツ世界論』、ヴェーバー『宗教社会学論集 第1巻上』他。

【おもな目次より】

第1部 キリスト教修道制、古代末期

- 第1章 禁欲主義という生き方
- 第2章 キリスト教修道制の成立と、なお残る問題
- 第3章 キリスト教修道制の成立
- 第4章 M. Weberにおける「禁欲」「修道制」概念
- 第5章 キリスト教にとって修道制は何を意味するか
- 第6章 キリスト教修道制におけるしあわせ?
- 第7章 Peter Brownの古代末期理解をめぐる

第2部 東方キリスト教とその周辺

- 第1章 『エジプト人マカリオス伝』研究
- 第2章 『エジプト人マカリオス伝』をめぐる諸考察
- 第3章 翻訳か自国語か
- 第4章 東方キリスト教文学におけるアラビア語
- 第5章 東方キリスト教における聖人伝と翻訳
- 第6章 最初のシリア語キリスト教著作家バルダイサン
- 第7章 【翻訳】バルダイサン『諸国の法の書』
- 第8章 最初のシリア語キリスト教著作家
バルダイサンの知的背景
- 第9章 東方キリスト教をめぐる

第3部 その他

- 第1章 イスラム教徒から批判された
教皇ベネディクト16世の講演
- 第2章 宗教を研究し教えることに何の意味があるか
- 第3章 なぜ今 Weber『宗教社会学論集』の新訳が必要か
- 第4章 ヴェーバー『宗教社会学論集』第1巻上(拙訳)
への註記及び覚書

● 3月刊行

死と命のメタファ

キリスト教贖罪論とその批判への聖書学的応答 ◆A5判・定価 2970円

浅野淳博著

聖書のメタファが語る、キリストの死に至る生き様の真の意味を解明し、それを今日いかなる語り方で伝えるかを考える。



● 3月刊行

ビリー・グラハムと「神の下の国家」アメリカ

相川裕亮著

◆四六判・定価 2750円

歴代大統領と親密な関係結び、「アメリカの牧師」として彼らの政策に有形無形の影響を及ぼしたビリー・グラハム。主に冷戦下70年代までの思想と行動を〈福音伝道者〉という観点から解明した俊英の力作。



● 3月刊行

ヤバい神

不都合な記事による旧約聖書入門

トーマス・レーマー著・白田浩一訳 ◆四六判・定価 2420円

旧約聖書の神はなぜ横暴で残酷に書かれているのか。そんな記述をどう解釈すべきか。多くの人が躓くテキストを旧約学の第一人者が取り上げ、それらの表現の意味と理由を考察し、愛と解放の真の神の「人柄」に迫った異色作。



● 3月刊行

脱原発の必然性とエネルギー転換の可能性

地震国日本の現実とドイツの先例から考える

竹本修三・木村護郎クリストフ著 ◆四六判・定価 1650円

日本列島の地震事情に詳しい地球物理学者と、ドイツの環境政策の研究者によるシンポジウムの記録。待たなしの課題に市民はどう応えるべきか。



青木義紀著

〔大森講座36〕

フランソワ・トレティエーニの神論

その神学的内容とスコラ的方法論 17世紀のプロテスタント正統主義・スコラ主義は思弁的で無味乾燥と評されるが果たしてそうか。代表的神学者であるトレティエーニの神論を手掛かりに、宗教改革の偉大な発見を後代に継承する重要な結晶点として再評価を試みる。

四六判・予価1500円

雨宮栄一著

反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシタボに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。著名な元帥の甥の孫であり、広大な領地を所有するユンカーだった伯が、反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。

四六判・予価2700円

松本宣郎著

初期キリスト教の世界

〔仮題〕

ローマ帝国史の視点から初期キリスト教史研究の地平を精力的に拡大してきた著者の、研究史的回顧を含む11の論考・講演を収録。地中海世界に生きた人々の心性、職業労働観、教会の営みなどをめぐり、多岐にわたる論点が浮かび上がってきて興味尽きない。

四六判・予価3500円

ジャン・カルヴァン著／森川甫・吉田隆訳

共観福音書注解 下

マタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら記された注解書。福音書の「調和」を見出そうとする改革者の情熱。上巻の刊行から36年ぶりの邦訳完結となる。

A5判・予価8500円

● 4月に出た本と雑誌

レヴィナスの時間論

『時間と他者』を読む

内田樹著



◆ A5判・定価2860円
レヴィナス思想の戦後の出発点を告げる『時間と他者』。難解をもつて鳴る同書を徹底的に精読・注解することを通して、深い苦しみの時間を生き抜いたユダヤ人の〈希望の時間論〉が浮かび上がる。

詩人は聖書をどのように表現したか

柴崎聰著



◆ 四六判・定価2310円
信仰者かつ優れた実作者である著者のみがなしうる透徹した読み。16名の詩人。島崎藤村／三木露風／山村暮鳥／八木重吉／石原吉郎／安西均／島朝夫／高野喜久雄／片瀬博子／塔和子／澤村光博／高橋喜久晴／野村英夫／島崎光正／阪田寛夫／森田進。

福音と世界

5月号 ユートピア再訪

◆ 定価6600円

寄稿者：池田浩士、吉村正和、曾田長人、役重善洋、高岡尚子、伊吹美貴子／大嶋果織、戒能信生／好評連載 C・J・サンダース&A・ヤーバー、山口陽一、山崎ランサム和彦、宇井志緒利、田崎英明、村澤真保呂、有住航

●忙しいときにサクッと観られてそここのクオリティの、なにかと「ちょうどいい」長寿ドラマ……。『スーパーナチュエラル』をそんなふうで紹介しようとしていたわたしはまだ何もわかっていなかったのだと、つい先日最終回を観終わり、痛感しています（以下、ネタバレ注意）。現代アメリカを舞台に、幽霊や吸血鬼、魔女や悪魔といった「モンスター」と戦う「ハンター」、サム&デイン・ウインチェスター兄弟を主人公とするこのホラーアクションは、二〇〇五年から一五年間にわたって放送されてきました。わたしはこれを約一年かけて配信で観進めてきたのですが、途中マンネリに思えることも多く、兄弟のどちらかが行方不明になったり、世界の危機に立ち向かって逆に事態を悪化させたりといった出来事も、正直見飽きた感すらあったものです。しかしファイナルシーズンで物語はあまりにも衝撃の展開を迎えます。そこで兄弟が対峙するのは「父神」。何度も繰り返されてきた同じような事件も、すべてはその慰みものにすぎなかったとしたら、つまり兄弟が悩み苦しむ間違えることを神自身が望んでいたのだとしたらどうか。世界を超越した神と、世界に内在する神という二つの神観をめぐる戦い

をへて、真に前進するとはどういうことかを物語る終幕には、我ながら引くくらい大泣きしました。決して平穩ではなかったサムとデインの人生が教えてくれたのは、他でもないこの世界を生きることの寂しさとかげがえのなさであったように思います。テーマソング「Garry on Warden Son」が歌い上げるように。(堀)

●キリスト教書店と呼ばれる専門書店が全国に点在します。営業車に本を積み込み、得意先の教会・学校・幼稚園などを訪問して新刊を紹介する古典的な対面販売を行っています。ネット通販が席巻しているにもかかわらず、否むしろ席巻しているがゆえに、大手ネットショップから顧みられないキリスト教書というニッチな分野の専門出版社にとって、地域の読者とながりを待つ書店はたいへん心強い存在です。しかし市場は年を追って縮小し、経営は困難を極め、事業の継承が危ぶまれています。四月五日の朝、旧知の牧師から仙台キリスト教書店の黒田忠社長が急逝したと告げられた時は驚愕しました。前日気分が悪いと訴えて救急搬送され、翌朝亡くなったとのこと。彼の車で何度も同行販売しましたが、そのつど、朗らかな彼が経営上の悩みをばやくのを聞きました。まだ四四歳。同労者を一人失ってしまいました。(小林)

福音と世界

2022年
6

特集：進化論との出会い

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料（送料共）8760円

ダーウイン・進化論とキリスト教

—— 公共圏における科学と宗教 —— 横山輝雄

日本の宗教者は進化論をどう受容したか？

—— 碧海寿広

文学における進化論 —— 一九世紀イギリス文学と進化思想 —— 山本卓

進化論教育をめぐるアメリカの現在

—— 自由選択と「公」からの離脱 —— 佐藤清子

生物学と「フェミニズム」—— 二世紀思想から —— フレンチ・フェミニズムの流れをたどる —— 檜垣立哉

現代神学と進化論

—— 「感謝と謙虚さの倫理」に向けて —— 小原克博

本誌創刊七〇年に寄せて……小林剛、松谷信司

【好評連載】

- ◆ 教会に於けるマイクロレクション 2 サンダース、ヤーバー
- ◆ 「日本的キリスト教」を読む 5 …… 山口陽一
- ◆ 新約釈義 ルカ福音書 6 …… 山崎ランサム和彦
- ◆ アジアの草の根 平和の証し人 9 …… 宇井志緒利
- ◆ 間隙を思考する 非同時代性のために 15 …… 田崎英明
- ◆ 古代イスラエル文学史序説 16 …… 勝村弘也
- ◆ 霊性のエロゾーあるいは「マリアリア」 18 村澤真保呂
- ◆ 福音のフラグメント 18 …… 有住航